
岐阜県立岐阜商業高等学校

校 長 村山 義広

学校住所 岐阜市則武新屋敷1816-6 電話 058-231-6161

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜商業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月8日 (木) 13:30~15:00
- 3 開催場所 岐阜商業高等学校 校長室
- 4 参加者
会 長 川島 政樹 カワボウ株式会社 代表取締役社長
委 員 大友 克之 朝日大学学長
大野 裕美 早田公民館 元館長
濱田 美姫 全日制PTA特別活動委員長
学 校 側 村山 義広 校長
廣江 修 副校長
吉田 美智代 教頭
早矢仕 賢治 教頭
田中 英淳 商業教育推進部長
後藤 敦史 教務部長
大池 須美子 進学指導部長

5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 学校長挨拶
- (2) 本校の成果と課題 (各分掌長より)
- (3) ご講評及びご助言
- (4) その他
- (5) 学校長挨拶

意見1:今年1年間、学業や進学、部活動などで昨年度にも増して成果を出されたことについて、大変喜んでいる。教務部の説明の中で前年度の比較数値について時系列で観た時、1年生が2年生になった時、2年生が3年生になった時にどのように変わっていったのかという見方も1つあると思う。学校において、それぞれの学年ごとの特徴みたいなものがあって、生徒の成長を観ようと思った時にその学年を3年間追うという見方もあっていいと思う。

意見2:前回の会議で出た課題を踏まえて、卒業後の生徒の就職に関しても手をうっていただいていることはありがたいと思っている。目指すべきところで話をすると県岐商を卒業した生徒がその後、どのような人生を送っていつているのかというところまで追えるといいのかなと思う。教育の成果というのは、卒業後の人生で問われる。県岐商は同窓会の組織がしっかりとした学校なので、県岐商から卒業した特色のある人材がどのような人生を歩まれたかというところまで観られるといいのではないかなと思う。近年、デジタル化が進む中で個人の成長の記録などの教育成果を義務教育から高校、大学そして最終的には企業に個人の資産として引き継がれていく時代になっていくのではないかなと思っている。

⇒学びの記録という話があったが、中学校から高校に上がる時に「キャリアパスポート」というも

ので生徒個人の教育活動等を引き継いでいる。本校では来年から支援ソフトを導入し、個人の成績や学習記録、資格や部活動の記録、探究学習や課題研究など、様々な教育活動をポートフォリオという形でデジタル記録していき、本人や保護者がタブレットやスマホからいつでも閲覧できるようにする取り組みを実践していく予定である。

意見3：eスポーツ部が全国準優勝という成果を出されたということで、優勝ではなかったが公立高校のなかでは1番ということで、大変喜ばしいことである。また、年末には県内の商業高校で販売のスキルなどを競い合う「商業達人カップ」においても優勝を成し遂げるなど大変素晴らしい成果を出されている。我々は若いビジネスの後継者を支援し育成していきたいと考えるなかで、単なる社員や事務員を雇用するということではなく、自分で会社を起業できるような有能な人材が岐阜県から多く出てくることを願っている。

意見4：生徒の評価の仕方としては、学年が繰り上がっていく時の変化を他の学年が上がっていく時の変化軸と比較して観ていかないと難しいと思う。また、共通した項目が比較的によくない傾向が見受けられるので、おそらく現場としては共通の原因がわかっているのだろうと思うので、何らかの手を入れていく必要があると思う。

意見5：商業推進や生徒指導のアンケート結果の一部において、生徒は上昇しているが、保護者は下降しているという傾向があるが、これはこの学校がというわけではなく、おそらく社会のニーズなのか規範なのか、あるいは親の期待なのか、毎年同じことを教えていてもだんだん親の期待度が上がってきてしまっているのではと感じている。社会のニーズに教育現場が合わせていくことやどのようにその乖離を埋めていくのかは大変難しいところであると思う。

意見6：アメリカの私立大学では、卒業生が母校にどれだけ寄付をしたかということを重視する傾向がある。その背景には、自身のボーンアイデンティティを出身校に求めている、という点が挙げられる。卒業後、社会で成功した証を母校への寄付の大きさによって示し、そして母校から表彰されるといったような母校との繋がりを SNS 等を利用してシステム化をしている。大切なことはいかに母校愛を持たせるか、である。今回の県岐商の取組みは卒業生に対して U ターン就職に関する企業情報の発信ということであるが、後輩たちの学校の様々な活動などを HP だけではなく、このようなネットワークを使ってどんどん発信していくことで、卒業生にこのネットワーク自体に関心を持たせ、離脱させないという広報戦略も有効であると思う。今年度卒業していく3年生に対して、このような取組みはとても良いと思うので、ぜひ、うまく運用していただきたい。

意見7：みなさんのお話をお伺いして、地域として果たしてどのように協力していったらよいのかと考えていたのだが、1つは地域パトロールをほぼ毎日行っているが、県岐商さんは定時制もあるので、そのあたりは注意して見守っていきようにしたいと思っている。また、地域と学校とのふれあいという行事を考える中で、年間でのあたりが学校としてはご都合がいいか教えていただきたい。また、春と秋に地域のお祭りもあるので、そういった行事にも県岐商の生徒さんに参加していただければと考えている。

⇒今回は2月ということでお声をかけていただいたが、学年末考査や検定等があり、年明けはやはり日程調整が難しいので、もう少し早い時期に打ち合わせができるとありがたい。あとお詫びとお願いですが、毎年、登下校の生徒の送迎に関する乗降マナーについて、地域住民から多くの苦情が学校に寄せられており、大変申し訳なく思っている。学校としては何もしていないわけではなく、警察と連携しながら生徒や保護者への注意喚起の指導を文書やすぐメール、HPなどでその都度、適宜何度も行っているのですが、また地域の方々にもその旨、機会があればお伝え願いたい。

意見8：保護者としては、とにかく資格をたくさん取らせていただいたと感謝している。子どもは特に簿記に関しては自信をもつことができ、大学進学後もさらに上を目指して頑張りたいと言っている。また、県岐商は部活動においても多くの部が活躍しているので、今後も頑張っていたいただきたい。1年間、この委員に携わることができ、学校がいろいろな取り組みをやっているということが初めてわかった。今後もより良い学校を目指していただきたい。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、今年度の学校運営全般について、各分掌長から成果と課題の報告を行った。また、委員の皆様から種々の意見交換が行われたうえで、全委員より本校の学校運営における最終報告について、承認が得られた。

さらに、企業、地域、PTAなど様々な分野から多岐にわたるご提言やご助言をいただき、今後の学校教育を運営するにあたり、大変参考となった。来年度の学校経営に活かしていきたい。